

登録コード	E2110900	開講年度	2026				
授業科目	日本史 I				担当教員	傳田 伊史	
英文授業名	Japanese History I				副担当	藤崎 聖也	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・4時限	対象学生	2～4年生
講義室	教育M301講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				⇔	・歴史的思考力を身に付けることにより、歴史的情報が、文化、社会において重要な意味をもつことについて理解できるようになる（達成目標①）。	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	・日本史学の専門的知識を身に付け、歴史教育の基礎として活用できるようになる（達成目標②）。 ・地域教材を用いてより発展的な歴史教育に応用できるようになる（達成目標③）。	
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、芸術文化、多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	日本の古墳時代から平安時代にかけての古代国家と地域社会の歴史について学ぶ。歴史的事象を理解するために必要な史資料の基礎的な知識、研究方法について、テキスト、画像、図表などを用いながら解説する。また地域社会のフィールドとしては、可能な限り信濃を対象とし、その歴史的分析、復原を行う。授業全体を通して、歴史的情報が、私たちの文化、社会において重要な意味をもつことについて理解を深め、歴史分野の教育活動に応用できる力を養う。						
(5)授業計画	第 1 回：ガイダンス ー古代の信濃 研究の方法と視点 第 2 回：古墳時代の王権と地域社会 第 3 回：倭王権の拡大と地域編成 ー倭・シナノ・朝鮮半島 第 4 回：中央集権的体制の形成 ー激動の7世紀 第 5 回：律令国家の地方支配 ー七道制・国郡制 第 6 回：律令国家の地方支配 ー地方行政の変遷 第 7 回：律令体制の成立 ー屋代木簡の世界 ※第7回冒頭にレポート提出。レポート内容は第1回に指示する 第 8 回：古代社会の生産と貢納 ー馬の文化その1 ※第8回冒頭に前回提出したレポートについて発表 第 9 回：古代社会の生産と貢納 ー馬の文化その2 第 10 回：古代社会の生産と貢納 ー古代の薬物「大黄」の謎 第 11 回：古代の災害と地域変動 その1 ー中部高地の特性と災害の記録 第 12 回：古代の災害と地域変動 その2 ー仁和の大災害 第 13 回：浄土思想と仏教の広がり ー善光寺信仰のはじまり ※第13回冒頭にレポート提出。レポート内容は第1回に指示する 第 14 回：院政と荘園公領制 ー信濃国小川庄の物語 ※第14回冒頭に前回提出したレポートについて発表 定期試験 授業アンケート ※教育実習による欠席分の補講は、課題の提出・添削等で対応する。						
(6)成績評価の方法	・授業の達成目標の到達度①・②を測る期末試験 40点 ・授業の達成目標の到達度②・③を測るレポート 30点（15点×2回） ・授業の達成目標の到達度②を測る毎回のコメント提出 30点 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	・期末試験（1回） 授業で示した内容と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題から難しい問題が解ければ「かなり上にある」、例題から難しい応用問題が解ければ「卓越している」。 ・レポート（2回） (i)問題の設定が適切であり、(ii)その問題の背景を説明できており、(iii)その問題にどのような課題があるのかを指摘でき、(iv)それらの課題に対しての既存の学説が提示する解決法を適切に把握し、(v)その上で自分の見解を提示できており、かつ教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。 (i)から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「合格水準にある」。						
(8)事前事後学習の内容	・事前／事後：提示した参考文献を読み、課題への理解を深める。 ・各回の授業で示される内容についてのコメントを次回授業の冒頭に提出する。 ※この授業は 90 時間の学修を必要とする内容である。従って、60 時間以上の時間外学習が必要となる。						
(9)履修上の注意	・高等学校日本史Bの基礎知識を有することが望ましい。 ・不明点は質問するなど、意欲的に授業に参加すること。						

(10)質問，相談への対応及び連絡先	授業後に時間を取ります。相談してください。 連絡先メールアドレス：den-if@m.nagano-c.ed.jp
【教科書】	指定しない。
【参考文献】	・佐藤信編『大学の日本史―教養から考える歴史へ 1 古代』（山川出版社、2016年） ・吉村武彦編『新版 古代史の基礎知識』（角川書店、2020年） ・『長野県史』通史編1 原始・古代、1989年。 ・『長野市誌』第2巻 歴史編 原始・古代・中世、2000年。